

冬のサロベツに棲む動物を学ぶ子供活動

2025 年 3 月 1 日

NPO 法人サロベツ・エコ・ネットワーク

目的

利尻礼文サロベツ国立公園に指定されているサロベツ地域は、広大な高層湿原や日本有数規模の海岸砂丘林があり、貴重な動植物が生息しています。この豊かな自然を後世に残すために、当法人では未来のサロベツを担う子供たちが身近な自然に興味をもち、好きになってもらうことが重要と考えています。そこで本活動ではサロベツの野生動物に触れあう機会を作ることを目的とし、毛皮や骨格標本に触れる体験、野生動物の痕跡を観察するイベントを企画しました。

活動内容及び結果

令和 6 年 9 月から令和 7 年 1 月に地元ハンターより提供されたシカやキツネを用いて子供が触ることの出来る毛皮と頭骨標本を作成しました(図 1)。

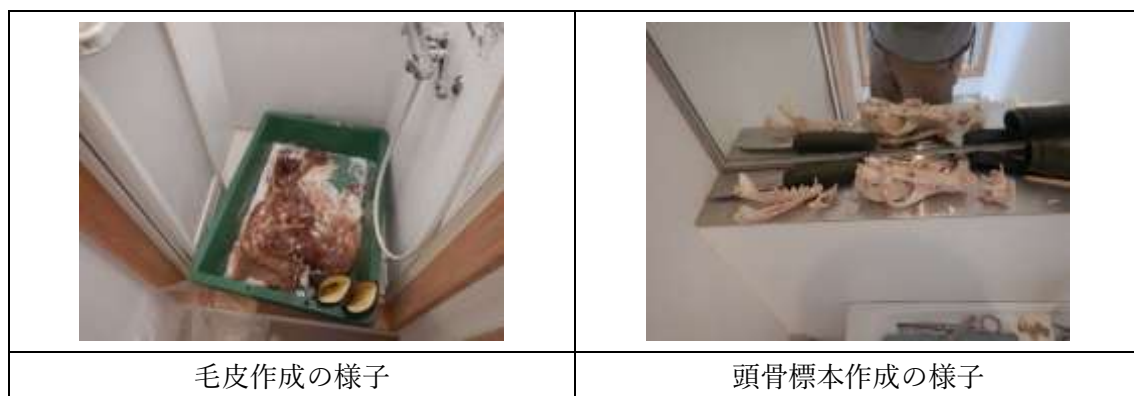


図 1. 標本作成の様子

イベントを実施するにあたり令和 7 年 1 月にチラシを地域の小学校(豊富町立豊富小学校、豊富町立兜沼小中学校)に配布し、ホームページでも広報を行いました。イベントは令和 7 年 2 月 1 日に実施し、7 名の参加がありました。

当日は子供とサロベツ湿原センター周辺の森林で野生動物の痕跡を探索し、エゾユキウサギやエゾシカ、エゾリス、キタキツネなどの痕跡(足跡、食痕)や樹木の冬芽などを観察することができました。探索中はどんな動物がつけた痕跡かクイズを出題し、動物や痕跡に興味をもち覚えてもらえるよう工夫をしました。

探索後はシカの毛皮に触る体験やシカとキツネの頭骨標本を観察し、冬毛と夏毛で毛量が変わることや、食べているもので歯の形に違いがあること、雌雄で頭骨の形が違うことなどを解説しました。

今回、本活動を通してサロベツに生息する野生動物に触れ合う機会を作ること、参加した子供たちには身近な自然に親しみを感じてもらうことができました。痕跡探索中には、クイズを出題したことで子供たちの興味が痕跡に向き、確認できたほとんどの痕跡を覚えてもらうことができました(図 2 左側)。また、樹皮に付着した地衣類やコケ類に興味を持つ子供もあり、普段身近に生息しているが注目しない生きものに目を向け、新しい発見を促すことができました。動物の標本に触れる体験では、シカの上あごには前歯がないことや夏毛より冬毛の方が分厚く毛量が多いことに子供たちは驚いていました(図 2 右側)。

今後もサロベツの豊かな自然を後世に残すため、未来を担う子供たちに身近な自然の魅力を発信し、重要性について気付いてもらえるような活動を行いたいと考えています。



図 2. イベントの様子